

第3学年普通科 シラバス (地理歴史) 科

愛媛県立大洲高等学校

教科	地理歴史	科目	世界史探究	学年	3	類型	I・II型
単位数	3単位	教科書	詳説世界史	出版社	山川出版社		
副教材	・最新世界史図表(第一学習社)						

学習の到達目標

- (1) 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
- (2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。

授業の概要

- ・「歴史総合」の学習によって身に付けた知識や資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義・特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究できる能力の育成を目指します。
- ・新しい地域の歴史を学習する際には、その地域の地形・気候などの地理的条件を確認し、関連付けながら学習します。
- ・資料やデータについて、歴史的経緯と関連付けて考察し、歴史的な見方・考え方の育成を目指します。
- ・一斉授業だけでなくペアワークやグループワークを行い、授業で学んだ事象を自分なりに表現する活動を多く取り入れます。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括(評定)します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味、特色などを、時期、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを説明したり、それらを基に議論する力を身に付けている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト(小テスト)・授業時の観察	定期考査・単元テスト・課題レポート・授業時の観察など	学習への参加状況など
備考	<p>・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</p> <p>・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</p> <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの</p> <p>4 … 十分満足できると判断できるもの</p> <p>3 … おおむね満足できると判断できるもの</p> <p>2 … 努力を要すると判断されるもの</p> <p>1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1学期	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	・ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解している。	1学期 中間考査
		・それまでの教会改革の試みと16世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現している。	
		・主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し、現代の世界へ与えた影響について主体的に探究しようとしている。	
		・17世紀におけるオランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因、2つのイギリスの革命、近世フランスの強みと課題について多面的・多角的に考察し表現している。	
		・主権国家体制においてポーランドとスウェーデンが占めた位置、ロシアが主権国家体制に参入していった経緯、プロイセンとオーストリアの関係の推移、啓蒙専制主義の特徴について理解している。	
		・科学革命の成果や啓蒙思想の意義について主体的に探究しようとしている。	
1学期	第12章 産業革命と環太平洋革命	・16世紀に始まった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係について理解している。	1学期 期末考査
		・アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	
		・人権宣言とアメリカ独立宣言を比較し、共通点と相違点を考察し表現している。 ・ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現している。	
		・ハイチ革命の特殊性について、環大西洋革命の他の事例と比較したうえで理解している。 ・中南米諸国の独立運動に共通する点を理解している。	
		・ウィーン体制の成立と1848年革命の展開と影響について、様々な思想が関係していることに着目しながら現代世界とのつながりについて主体的に探究しようとしている。 ・領土拡大がアメリカ社会に与えた影響と、アメリカ合衆国の歴史において移民が持つ意味を多面的・多角的に考察し表現している。	
		・国民文化と国民国家形成との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	
2学期	第14章 アジア諸地域の動揺	・オスマン帝国の列強への経済的な従属化の経緯と、オスマン帝国の改革の成果と課題について理解している。	2学期 中間考査
		・ヨーロッパ各国の東インド会社がアジアでおこなった活動の状況や東南アジアの植民地化の経緯を理解したうえで、タイが植民地化されなかった要因を多面的・多角的に考察し表現している。	
		・欧米諸国が清朝に進出したことと、日本の台頭が東アジア諸国間の関係に与えた影響について、現代世界の中華人民共和国の動きと比較しながら主体的に探究しようとしている。	
		・帝国主義の支配を受けた地域における社会や文化の変化を多面的・多角的に考察し表現している。	
		・列強の植民地化による世界各地の変容について理解している。	
		・西アジア各地における民族運動の共通点を理解したうえで、その後の各地の政治体制との関わりについて主体的に探究しようとしている。	
2学期	第15章 帝国主義とアジアの民族運動	・第一次世界大戦がもたらした影響及びロシア革命の経緯を理解している。	2学期 期末考査
		・欧諸国における第一次世界大戦後の展開を多面的・多角的に考察し表現している。	
		・第一次世界大戦が東アジアの政治・経済・文化に与えた影響及び第一次世界大戦後のインド・東南アジア・アフリカにおける民族運動の経緯について理解している。	
		・世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。	
		・第一次世界大戦と比較したうえで、第二次世界大戦の影響を多面的・多角的に考察し、主体的に探究しようとしている。	
		・冷戦開始および東西ヨーロッパ分断の進展、東南アジアおよび南アジアの独立の背景や経緯を理解している。	
3学期	第16章 第一次世界大戦と世界の変容	・冷戦の進展が世界各地に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	3学期 期末考査
		・自立化を追求するアジア・アフリカの新興諸国がいかなる行動をとったのかを理解する。	
		・冷戦体制の動揺が世界各地にどのように影響を与えたのか主体的に探究しようとしている。	
		・経済成長にともなう先進諸国の政策・社会の変化を理解している。	
		・1970年代後半から80年代前半において米ソがそれぞれ追求した対外政策や、東西対立の緩和が東アジアやアフリカなど諸地域にもたらした影響を理解している。	
		・地球世界の課題について、よりよい社会の実現を視野に主体的に探究しようとする態度を養っている。	

第3学年普通科 シラバス（地理歴史）科

愛媛県立大洲高等学校

教科	地理歴史	科目	世界史研究	学年	3	類型	I・II型
単位数	2単位	教科書	大洲高等学校 「世界史探究ワークブック」	出版社	大洲高等学校地歴・公民科		
副教材							

学習の到達目標

東南アジアやイスラーム世界などのアジアの地域史や、現代史を深く掘り下げ、探究することにより、歴史的思考力を培い、多角的な視点や考察力を身につける。

授業の概要

・世界史を学習する上で我々になじみのない地域である東南アジアやイスラーム地域の歴史について、深く探究することによって多角的な視点や考察力を身に付けることを目指します。また、我が国との関連を強く意識して現代史を探究することによって現代の諸課題について考察します。
 ・資料やデータについて、歴史的経緯と関連付けて考察し、歴史的な見方・考え方の育成を目指します。
 ・一斉授業だけでなくペアワークやグループワークを行い、授業で学んだ事象を自分なりに表現する活動を多く取り入れます。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	アジア史・現代史を中心とした世界史の探究の中でより多角的な視点に基づいて、我が国の歴史と関連付けながら深く理解し、その知識を身に付けている。	アジア史・現代史を中心とした世界史を探究するための諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的な事象を追究する方法を身に付けるとともに、課題を探求し考察した過程や結果を適切に表現している。	アジア史・現代史の大きな枠組と流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員として、よりよい社会の実現を視野に主体的に探究しようとする態度を身に付けている。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト(小テスト)・授業時の観察	定期考査・単元テスト・課題レポート・授業時の観察など	学習への参加状況など
備考	<p>・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</p> <p>・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</p> <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	第 1 章 東南アジア史	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの地理的特徴と歴史との関わりについて理解している。 ・近現代東南アジアの歴史的展開について、よりよい社会の実現を視野に主体的に探究しようとする態度を養っている。 	1 学期 中間考査
	第 2 章 イスラーム史	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームの誕生した背景とその特徴について、多面的・多角的に考察し、表現することができている。 ・イスラームの発展していく展開について理解している。 ・近現代のイスラーム世界について、欧米諸国との関係の変化に着目して多面的・多角的に考察し、表現することができている。 	
2 学期	第 3 章 近現代中国史	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国や日本の侵略と民族運動の展開について理解している。 ・戦後の中国史について、冷戦や国内の政治闘争や経済発展などについて考察したうえで、よりよい社会の実現を視野に主体的に探究しようとする態度を養っている。 	2 学期 中間考査
	第 4 章 世界大戦と現代の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの世界大戦について、開戦に至るまでの各国の政治的・経済的状況について比較し、理解することができている。 ・第二次世界大戦の特徴について理解したうえで、世界にどのような影響を与えたのか多面的・多角的に考察し、表現することができている。 	
3 学期		<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界が抱える諸課題について、よりよい社会の実現を視野に主体的に探究しようとする態度を養っている。 	2 学期 期末考査